

---

## 「子宮頸癌におけるミスマッチ修復機構欠損の検討」に関するお知らせ

---

このたび、当院で診察を行った患者さんの検体を用いた以下の研究を実施いたします。  
本研究は、国際医療センター臨床研究 IRB の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。  
本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、残余検体やカルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

### 研究の概要について

#### 1. 研究の対象となる方

2007年04月01日から2025年3月1日の期間に埼玉医大国際医療センターを受診し、子宮頸癌と診断され、生検・手術を実施した患者さんを対象としております。

#### 2. 研究の目的

子宮頸癌の原因の多くはヒトパピローマウイルスと言われていますが、このウイルスに関係なく子宮頸癌が発症することがあります。私たちは、ミスマッチ修復機構欠損という、DNAの複製時にエラーをチェックするタンパク質に異常がある場合にも、子宮頸癌の原因の一部ではないかと推測しています。この研究では、子宮頸癌でのミスマッチ修復機構欠損があるかどうかや、ヒトパピローマウイルスやEBウイルス感染との関連について調べます。ミスマッチ修復機構欠損は、様々な臓器の癌で報告されており、近年では免疫チェックポイント阻害薬が効くとされることから、患者さんにとってもメリットが大きいです。

#### 3. 研究期間

病院長の許可後～2025年3月31日

### 研究に用いる試料・情報について

#### 1. 試料・情報の内容

生検や手術により採取された検体のうち、病理診断に必要な部分（残余検体）を用います。この研究は当院の病理診断室でのみ行うため、患者さんのお名前や患者番号、病理検体番号等が外部に漏れることはありません。また、学術誌や学会発表等で結果を報告する場合にも、患者さん個人が特定されることのないよう配慮致しますのでご安心ください。

#### 2. 試料・情報の取得方法

子宮頸癌と診断された患者さんの生検・手術を実施した際に生じた残余検体、検査データおよび診療記録等を用います。

#### 3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

病理診断科 医師 助教 美山 優(研究責任者)  
病理診断科 医師 教授 安田 政実  
病理診断科 臨床検査技師 係長 加藤 智美  
婦人科腫瘍科 医師 助教 佐藤 正易  
婦人科腫瘍科 医師 講師 藪野 彰  
婦人科腫瘍科 医師 教授 長谷川 幸清

#### 4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医大国際医療センター 病院長 佐伯俊昭

#### お問い合わせについて

ご自身の検体やカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

ご希望があれば、他の患者さんの個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲で、研究計画書や研究の方法に関する資料を閲覧することができますので、以下の連絡先までご連絡ください。

研究計画や研究実施に関する手続きの相談、研究により得られた結果等に関する相談、遺伝カウンセリングや遺伝医療の相談がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

埼玉医大国際医療センター 病理診断科 美山 優

住所：〒350-1249 埼玉県日高市山根 1397-1

電話：042-984-4111(内線 5214) (土日祝日を除く 8:30~17:30)

メールアドレス：miyamay@saitama-med.ac.jp

○研究課題名：子宮頸癌におけるミスマッチ修復機構欠損の検討

○研究責任(代表)者：埼玉医大国際医療センター 病理診断科 美山 優